

2018年9月26日

第61回果汁技術研究発表会「レモン新品種“璃^りの香^か”の香気成分」

三栄源エフ・エフ・アイは、第61回果汁技術研究発表会(2018年9月14日東京都)で「レモン新品種“璃の香”の香気成分」について発表を行いました。



写真：“璃の香”
農研機構 果樹茶業研究部門 カンキツ研究領域(興津)にて
2014年12月撮影

【概要】

近年、国産レモンに対する需要が高まっており、広島県や愛媛県などを主な産地として生産量が伸びています。しかしながら、レモンはカンキツの中でも病気に弱く、産地拡大が課題となっています。

“璃の香”は、農研機構 果樹茶業研究部門によって開発されたレモンの新品種で、耐病性に優れ、豊産性で搾汁率も高いことから、今後の普及が期待されています。その風味は、まろやかな酸味と従来のレモンにはない華やかな香りが特徴です。果汁は和食にもよく合い、料理の引き立て役としても活用が見込まれています。

三栄源エフ・エフ・アイでは、農研機構 果樹茶業研究部門と共同で“璃の香”の香り特性の解明に取り組みました。その結果、“璃の香”は一般的なレモンの香りに加え、カンキツ系の華やかな香り成分であるシトロネラールが特徴となっており、従来のレモンにはない要素を兼ね備えた香りの構成であることを解明しました。この特徴成分は、スタチやカボスといった和カンキツと共通するもので、和食との相性の良さに貢献していると考えられます。

三栄源エフ・エフ・アイは、普及が期待される新しい果樹の香気研究に今後も取り組み、特色ある香料開発に活かしていきます。

三栄源エフ・エフ・アイは、安全・安心な食品添加物を通じて、すべてのひとに健やかな暮らしと食の喜びを提供することを使命としています。「香り」「色」「食感」「味」「健康・機能」からなる5つの研究開発領域を融合し、創業以来100年を超えて培ってきた先端技術と感性により、食の新たな価値を創造し、豊かな食文化と持続可能な社会の実現に貢献してまいります。

本社所在地 〒561-8588 大阪府豊中市三和町1-1-11

代表者 代表取締役会長兼社長 清水 孝重

事業内容 食品・食品添加物・食品原料・工業製品の製造および販売

事業拠点 本社・東京支社・営業所(仙台、東京、名古屋、広島、福岡)、工場(大阪、滋賀、岡山)

PR:1ARQU